

宇多津地区

(香川県宇多津町)

計画期間 平成17年度～平成21年度
 面積 145ha
 交付対象事業費 946百万円
 町人口 16,658人(地区内人口 7,018人)

ポイント

1社9ヶ寺や町家など古くからの歴史・文化が残る旧市街地と区画整理を行いマンション、商業施設が立ち並び都市化した新市街地の賑わいが調和するまちづくり

地区概要

旧市街地は、回遊道路の整備により住環境及び来訪者数の増加を目指し、新市街地については、既存の公園の再編整備を行い域内交流の活性化を図り賑わいの再生を目指します。

目標

古くからの歴史・文化と新しい市街地の賑わいが調和しながら交流するまちづくりを目指します。

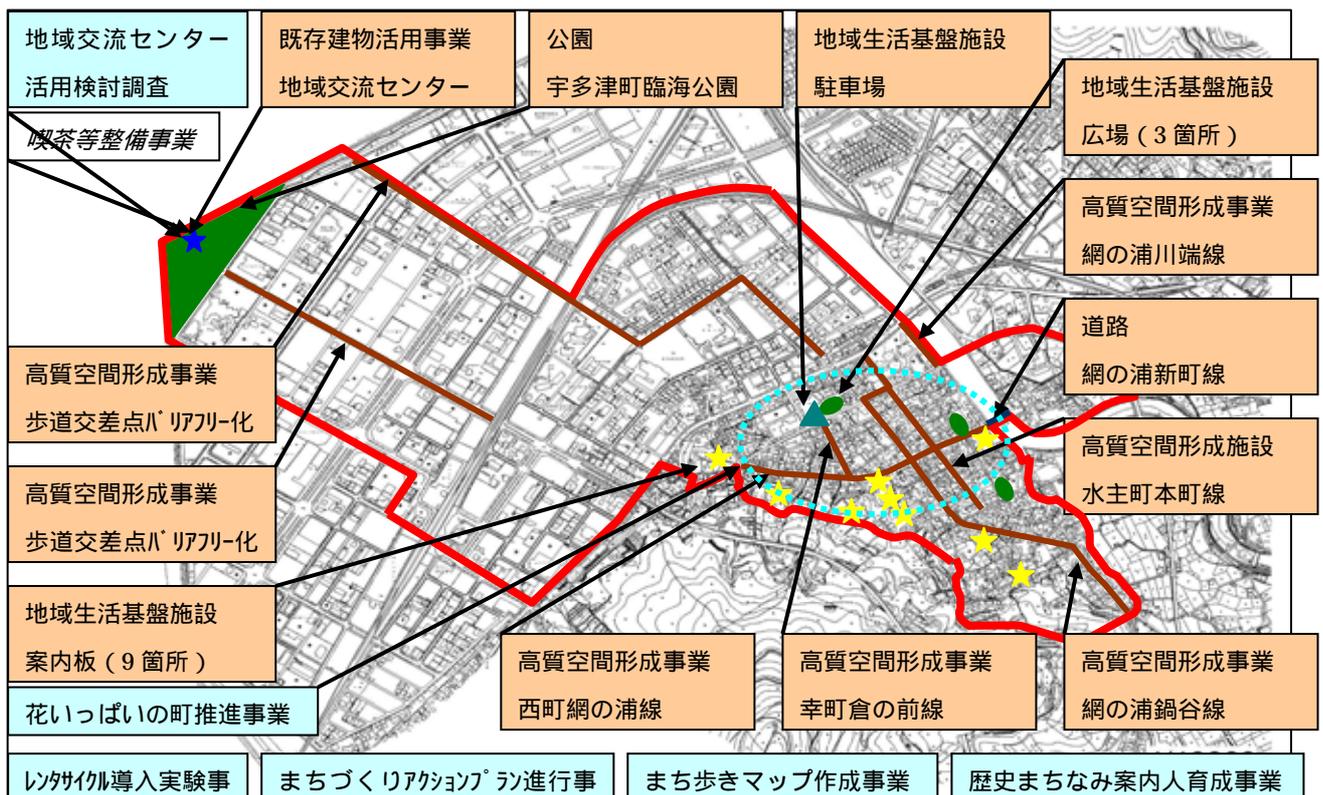
指標

にぎわいと交流の視点から主要観光施設への来訪者数や住民のまちづくり活動への参加者数の推移を指標として設定した。

地域来訪者数(旧市街地)	313,500人 (H15)	400,000人 (H20)
地域交流センター利用者数	4,250人 (H15)	10,000人 (H20)
まちづくり活動団体への参加者数	250人 (H15)	1,000人 (H20)
地区内で開催されるイベントへの参加者数	38,220人 (H15)	45,000人 (H20)

事業内容

基幹事業(925百万円) 道路(1路線 50m)、公園(3.62ha)、地域生活基盤施設(広場3箇所 840㎡、駐車場1箇所 20台、情報板9箇所) 高質空間形成施設(4路線 2,330m 景観舗装、交差点の歩道部分の段差解消 16箇所) 既存建物活用事業(地域交流センター 760㎡)
 提案事業(21百万円) レンタサイクル導入実験事業、地域交流センター活用検討調査、まちづくりアクションプラン進行事業、まち歩きマップ作成、歴史町並み案内人育成事業、花いっぱいのもち推進事業



地区の現況と課題

- ・旧市街地では、住宅が密集し道路が狭隘であるなど市街地環境として多くの問題を抱えている。近年は高齢化、空洞化が進行し、まちの活力が失われつつあり、住環境整備と歴史的資源を活かした魅力的な町並みづくりにより、人口の定着と来訪者の増加を図る必要がある。
- ・区画整理を行った新市街地については、臨海公園を中心とした集客ゾーンへの来訪者が、瀬戸大橋開通時に比べ激減しており、施設の再編、機能強化など賑わい再生への取り組みが求められている。

提案事業の特徴

レンタサイクル導入実験事業

域内外の交流活動の活性化の一環として、レンタサイクル事業の実証実験を行う。

地域交流センター活用検討調査

宇多津臨海公園内に位置する産業資料館を地域交流センターとしてリニューアルするにあたり、施設設計の前提条件となる各種検討を行う。

まちづくりアクションプラン進行事業

交流と賑わいのあるまちづくり、地域資源が活きるまちづくりを目指し、住民主体のまちづくり協議会への継続的な活動推進を目指しその活動支援を行う。

まち歩きマップ作成事業

来訪者の回遊性を高め、交流活動の発展を促すため町内の情報を整理した小冊子を作成する。

歴史町並み案内人育成事業

域外からの来訪者に対して、町内の歴史文化資産についての案内及び情報提供を行う住民の育成を目指し研修等を行う。

花いっぱいのもち推進事業

花の苗等を配布し、自宅前に花を植えることによって、街並みの景観向上と住民の交流促進を図る。

計画策定プロセス

協働のまちづくり

まちづくりについて協議する住民参加型委員会として、平成15年に「宇多津町既成市街地整備懇談会」、平成16年に「宇多津町既成市街地等整備検討委員会」を設置し、それぞれテーマを決めて協議をおこなってきた。また、委員会の意見を広くアピールするためにシンポジウムを2回開催した。当該事業についても、上記の委員会で協議し計画を策定した。現在も、まちづくりを考える委員会が設置されており、住民自らできるまちづくりについて協議を行っている。

宇多津町長谷川実氏のコメント

・「そこに暮らしている住民にとって、暮らしやすく誇りに思うまちづくり」を念頭に、住民との協働により計画を策定いたしました。計画を遂行する中で、住民のまちづくりへの意識が一段と高まっていくと確信しています。



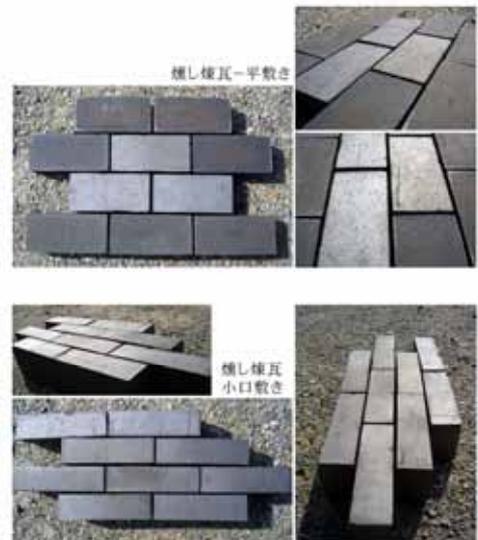
宇多津臨海公園現況写真



住民団体の主催によるイベントの様子



旧市街地の街並み



旧市街地の道路整備に使用する焼しレンガ